

青年海外協力隊としてルワンダへ！

富士見市協働推進課 熊 あゆみ（2018年度2次隊 野菜栽培隊員）

Episode4 思い出の初登庁～海外は本当に「待つ」？～



Muraho.

十一月中旬からは、任地であるルワンダ南部のフイエ郡庁に配属しています。今回は、緊張の初登庁の思い出をお送りします。

■職種、国、要請って？■

私の「職種」は野菜栽培というものです。「国」はルワンダ、「要請」はフイエにおいて地元農家の収入向上のために、主にトマトとキャベツの栽培状況の改善や農業技術との巡回というのが内容でした。

青年海外協力隊はこのように「職種」と「国」、「要請」の三点を応募する際に選びます。職種は一つしか選べませんが、国と要請は三つまで選べます。最終的にはJICAが書類審査や面接で適性等を見て、どの国と要請にするか、決定します。

このフイエで野菜栽培隊員の派遣は私が初めてです。そこで私は、数年前に調査が行われた専門家によるルワンダ全体の結果をもとに、まずはフイエの今の状況を自分の手で調べようと考えていました。

■定時は朝七時から■

いよいよ登庁当日、指定された定時の朝七時より早く行ってみると、私のカウンターパートも十五分前に到着しました。前から抱いていた「海外は待つ」イメージ。

そんなことはなく、実は内心驚いていました。すると、「会議があるから、三十分待ってて。」と言われ、別室に行くこと……
…三時間。

何度も時計を見て、間違いではないかと会議室にも行きました。会議は確かにずっと続いていました。

その間に、持ってきたパソコンでいろいろと調べものはできたものの、「これがそういうことなのか」と、少し腑に落ちた瞬間でした。

■与えられるものではなく、取りに行くもの■

会議を終えたカウンタートパートは、私に「自由にオフィスワークしてね。君はいつでも自由だ。」と一言。当日は配属先の事業説明をしてもらう約束だったので、少ししゅんとしてしまいました。ですが、事前に聞きたいことを決めており、情報収集をしてみることにしました。

「農家さんに肥料を配っていると聞いたのですが、いつ、どうやって配っているのですか。」

「セクター(郡が管轄する区分の名称。日本で言う郡が県、セクターが市町のようなもの)などでまとめて配布しているよ。政府が肥料を売る店に補助をして、農家さんも安く買えるようにもしている。」

「その農家さんやお店のリストはありませんか。」
「うーん……」



「セクターに行く日はありませんか。」
「うん、今はちょっと忙しいからね。十二月からかな」

本当にカウンタートパートは忙しい方だと今は言えます。他にも聞きたかったことを次々と、合計二時間ほど質問攻めにしてしまいました。

あと半月は外に出られない。

それなら、徒歩で行けるマーケットやネットでの情報収集など、自分でできることをしようと決意しました。

■救世主の登場■

お昼の時間だから休み取ってね、と言われ外に出ると、他の職種ではありませんが、農業系で配属先が同じ先輩隊員の方に会い、相談をしました。

そして、翌日から知り合いの農家さんを一緒に回らせてもらえることになりました。なんと赴任二日目から、今にもつながっている私の活動が始まったのです。

三時間待った初登庁の思い出。緊張はもはやどこかへ行ってしまったていました。